

経営比較分析表（令和元年度決算）

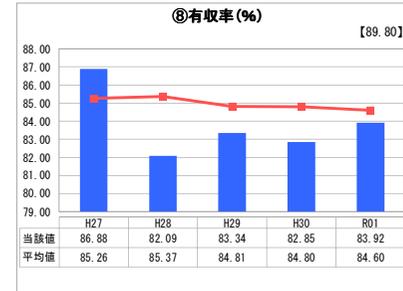
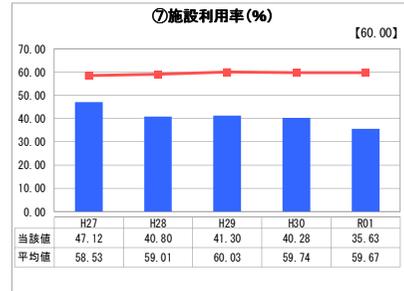
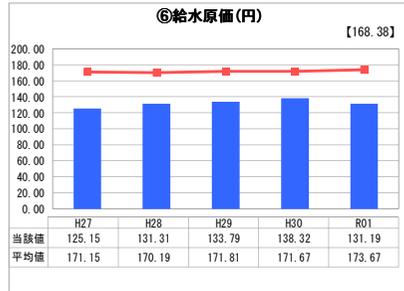
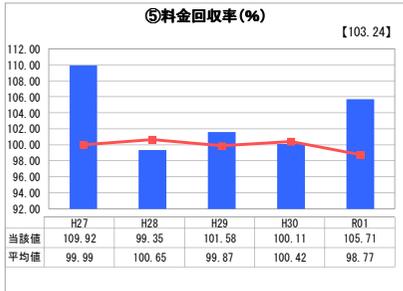
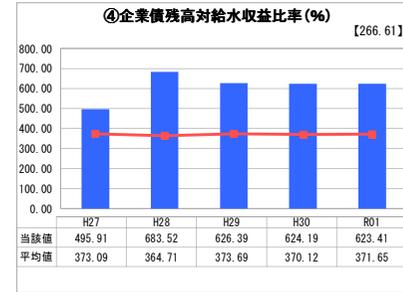
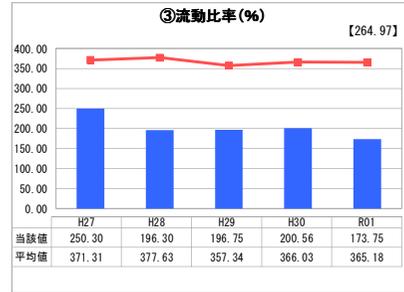
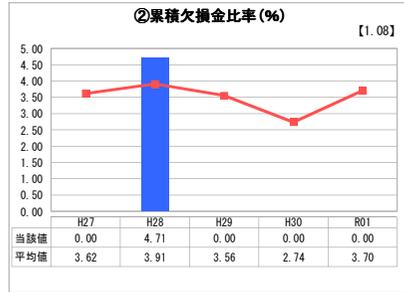
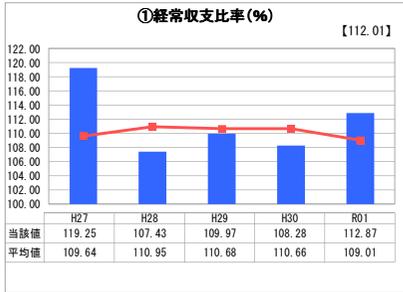
熊本県 菊池市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	42.95	71.94	2,780	

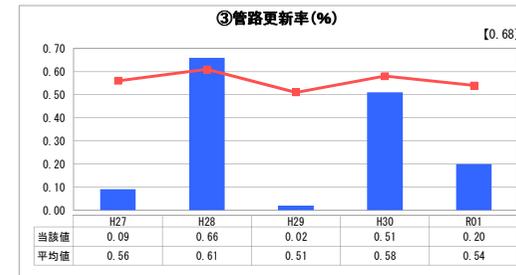
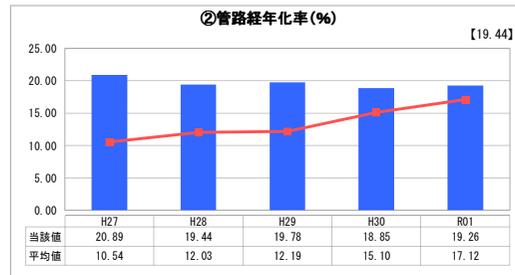
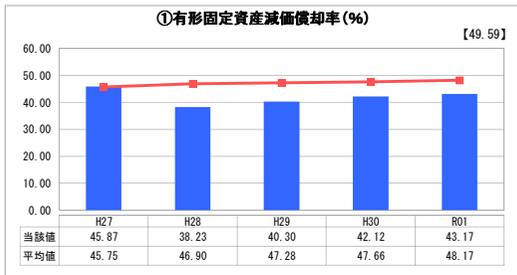
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
48,592	276.85	175.52
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
34,727	71.96	482.59

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率は、主に資産減耗費や支払利息の減により費用が抑えられたことで、前年度より改善しました。
- ②累積欠損金比率は、平成28年度に簡易水道事業と統合したため欠損金が生じました。
- ③流動比率は、前年度を下回りましたが、必要とされる1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等があることを示す100%以上となっていることから、経営の健全性は概ね保たれている状況といえます。
- ④企業債残高対給水収益比率は、旧簡易水道事業の企業債借入れによるものが影響し、類似団体平均値を大きく超えています。毎年度の企業債借入額がその年度の企業債償還額を上回らない額とするなど、改善を図ります。
- ⑤料金回収率は、主に費用が減少したことで、前年度より改善しました。
- ⑥給水原価は、地下水を水源としているため、類似団体平均と比較して低い状況です。
- ⑦施設利用率は、地形などの影響から多数の施設を保有するため低い状況です。
- ⑧有収率は、発見までに相当の時間を要する漏水がほとんどなかったことなどから、前年度より改善しました。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率は、類似団体平均と比較しても同様な状況であり、水道水の安定供給に影響を及ぼす状況ではありません。
- ②管路経年化率は、前年並みとなっておりますが、類似団体平均を超えている状況です。
- ③管路更新率は、令和元年度において、主に水道施設の充実を重点的に実施したため前年度より低下しました。

全体総括

今後は、菊池市水道ビジョン（経営戦略）に基づき、適切な維持管理により現有資産を有効に活用しつつ、施設更新時にはダウンサイジング等を踏まえながら施設の再構築を図り、施設利用率の向上を目指すとともに、老朽化の進んだ管路を計画的に更新し、さらに有収率の改善を図っていく必要があります。